

平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

荏田域ケアプラザ

■ 事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行ったのか、具体的に記載してください。

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分

1 全事業共通

地域の現状と課題について

ア 地域の状況

地域ケアプラザの担当エリアである荏田地区及び新荏田地区は青葉区の東に位置し、昭和 50 年頃、東急田園都市線開通に合わせて開発された地域です。担当エリアの中央には国道 246 号線と東急田園都市線が通り、南北で生活圏が別れています。地域の殆どは住宅地で占めており、大型店舗や公立の学校はありません。さらに、多人数を収容できる公共施設はありません。

2 地区全体の人口は約 21,000 人で、高齢化率は 15%と比較的若いですが、地区の一部では高齢化が 30%を超えています。また、空き家も増加傾向にあります。

イ 課題

(7) 小学校の学区は 4 校に分かれており、児童のみならず親の交流も小学校毎となっているため、地区の交流も全体より小さな範囲で行われます。さらに、多人数が集まれる店舗や施設がありません。また、地域の南側にある地域ケアプラザは、国道 246 号線以北の住民には交通が不便なため利便性が悪い状況です。従って、身近なところでの居場所作りが必要です。

(4) 高齢化が顕著になっている地域では、認知症に関する相談が多く、相談を受ける段階では問題が深刻となっている状況が散見されます。日頃からの地域における見守りが必要です。

(7) 地域住民に情報を伝える上では、学校を通じての広報が効果的ですが、他地区と混在することから学校に依頼できません。効果的な広報を行うためには、工夫が必要です。

(1) 相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

ア 子育て・高齢・障害分野の情報を整理した、ファイルを作成しました。また適切な情報提供ができるように、事業への見学やヒアリングを行いました。

イ ケアプラザ広報紙「常夜燈」を計7回発行しました。またケアプラザブログ「知っとこ！荏田」を、原則週2回更新しました。

ウ 障がい者の就労移行や児童デイ等の情報ファイルを作成し、ワンストップできる体制を作りました。またえだ福祉ホームと荏田地域の障害支援について、定期的な情報交換の場を設けました。

(2) 各事業の連携

指定管理部門5職種の会議を毎月開催し、各事業の目的や方法を確認すると共に、運営についても連携して取り組みました。

地域支援においては、毎年度作成する地区支援計画に基づいて、各職種が地域に出向き、地区支援記録を作成しました。支援結果については5職種と所長、区社協とのミーティングを行い、情報共有しました。

(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

常勤職員人事は法人全体で行っており、地域ケアプラザを運営する上で法令上必要な専門知識をもつ有資格者の配置を行いました。また、ベテラン・中堅・新人等経験により適材適所の配置と、定期的な異動を行うことで職場の活性化を図りました。

職員の育成については、研修計画に基づき全職員を対象とした研修から専門職の研修まで実施しました。さらに、新人職員については、育成リーダーを就けて育成計画に基づいた人材育成を行いました。

公正・中立性確保については、利用者に提示できるようサービス事業所やインフォーマルサービスの種類ごとのファイルを作成しました。また、職員会議等で事業者情報の提供方法について随時確認しました。

(4) 地域福祉保健のネットワーク構築

日頃から定例会や行事等に参加し、地域情報を交換・共有することで、連合町内会、自治会町内会、区社会福祉協議会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、区役所等との連携を図りました。

特に、サポートチーム会議では、地区支援記録や地区支援計画を共有し、地域課題の共有から地域課題の解決までを目指し、地域が主体となって取組めるネットワークを構築しました。

(5) 区行政との協働

地域福祉保健計画では地域により身近な施設として、区及び区社協と共に地区別計画の推進を重視して取り組みました。荏田地区、新荏田地区ともに、推進会議の前には必ず支援チーム会議を行い、互いが持っている情報を共有し、目指す方向性について共有・確認しました。

また、区運営方針「すくすく・いきいき！健やか暮らしプロジェクト」における「あおばこどもシステム」や「地域包括ケアシステム」の取組を通じて、誰もが安心して健やかに暮らせる地域づくりを進めました。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

高齢者の居場所作りでは、ケアプラザで行った茶話会や、地区社協と共催で各地域のサロンを開催し、高齢者の居場所を創出しています。

子育てフリースペース「えだぴよ」では、7月～3月にかけて増回し、地域の子育てを応援しました。また、子育てに関するニーズ把握のため、関係機関との連絡会を開催し、次年度の継続的な話し合いの場につながりました。

配食ボランティア「えだ家」の事務局として、支援を行い、1年間で1,600食を超えるお弁当を利用者へお届けし、見守りも行うことができました。

他にも、お餅つき大会や地域団体交流会等、地域住民に幅広く参加していただく機会も設けて、ケアプラザに足を運んでいただくきっかけを作りました。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

会場利用団体が利用しやすい様に配慮するだけでなく、利用団体の活動内容を把握して、地域の茶話会にケアプラザの貸館登録団体が協力を行うなど、地域で活動できるようにコーディネートしました。

また、地域団体交流会を開催し、利用団体の要望等を聞くと共に、団体同士が情報交換をできる場を提供しました。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

ボランティアの育成について、自主事業や地域の茶話会で活動の場をつくることで、ボランティアを継続的に活動できるようにしました。

ボランティアコーディネートについて、地域団体交流会を開催して、繋がりを作るグループワークを開催した結果、地域の茶話会でのダンスサークルの出演や、サロン活動を行っている団体が、他団体への出張サロンなどをコーディネートしました。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

単位自治会で行われている茶話会などへの出席を通じて、お困りごとを抱えている住民の情報収集や、社会資源の把握を行うと共に、区や区社協から受けた情報を提供しました。また、把握した社会資源や福祉保健に関する情報等については、地区支援記録を通じて、ケアプラザ職員で共有して、必要に応じて住民に情報提供しました。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

生活支援コーディネーターのみならず、地域ケアプラザ全体で推進しました。定期的に上記の5職種会議を開催し、事業方針と進捗状況を確認しながら進めています。また、地区社協や自治会等の地縁組織にも参画してもらい、地域住民と共に事業推進をしました。さらに、地域の企業にも取組説明を行い、事業推進に参画してもらいました。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

連合自治会単位の地域アセスメントシートから、自治会単位の地域アセスメントシートを作成するための準備を行いました。次年度より、地区の自治会町内会を5職種で担当分担を行い、密なかかわりを持てるような体制の準備を行いました。

「支えあいマップ」の作成を行うため、単位自治会に働きかけを行い、次年度に実施する運びとなりました。

(3) 連携・協議の場

荏田地区については、平成29年より開始した協議体を通して、地域課題を話し合う場としています。その他、荏田北二丁目自治会では、地域の支え合い活動推進のために座談会を開催。その結果、継続的に支え合いについて住民が話し合う場を設定できました。

新荏田地区では、地区別計画推進会議を活用して、地域住民が話し合える場となるよう、地区社協および連合会長と何度も話し合いをかさねました。その結果、次年度より具体的な支え合いの活動を検討する場を設定することができました。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

区域の生活支援 Co 連絡会では、生活支援事業を提供している民間企業との連絡会を実施するに当たり、区社協生活支援 Co と共に企画・運営を行いました。その他、エリア外の地域情報のヒアリングには至りませんでした。個別相談があった際には、他 CP に問合せ、その相談者の生活圏域に合った情報を提供しました。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

①地域におけるネットワークの構築

関連団体の定例会や会議には5職種が参加して、情報交換の機会を積極的に設定すると共に、相談が受けやすいように顔の見える関係を築きました。

また、地域と事業者との関係では、民生委員とケアマネジャーとの情報交換を3回実施しました。

②実態把握

日頃から区や区社協からのデータ等、各種統計資料の情報を収集し、地域の特性把握に努めました。

また、相談時に寄せられた日常生活課題について詳細に分析し、地域内の個別および圏域ニーズを把握しました。

③総合相談支援

介護保険に係る相談のみならず、高齢者の日常的な困りごとや地域住民からの情報も記録し、地域との関係性をはじめとする環境面の把握に努めました。

また、相談者のみに止まらず、相談者家族の支援に必要な情報を提供しました。さらに、相談のみでサービスを利用していない独居高齢者や高齢者世帯を中心に、電話や訪問等で様子を伺い、継続的に状況を確認しました。

(2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

地域住民に対し成年後見制度の説明を行い、制度への理解と活用促進と、青葉区版エンディングノート「わたしノート」の普及啓発を目的に、「わたしノート書き方講座」を実施しました。

消費者被害の防止については、地域住民から寄せられた情報や実際に送られてきた詐欺ハガキを警察や行政とも共有し、地域のサロンや広報紙等で地域に啓発しました。

② 高齢者虐待への対応

虐待が疑われるケースを把握した場合は、速やかに区福祉保健センターへ通報し、情報共有と支援方針を確認して必要な支援を行いました。

介護者から介護負担に関する相談があった際は、速やかに対応して虐待の未然防止に向けた支援を行いました。

③ 認知症

地域のキャラバン・メイトや地区社協と協力しながら、荏田小学校の福祉教育や、アートフォーラムあざみ野職員に対し、「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症について理解を深め対応の仕方の周知を図りました。

なお、医療・介護サービスにつながらない困難ケース等については、認知症初期集中支援チームと連携して効果的に対応しました。

認知症の人を介護する家族に対し、必要な情報の提供と継続的な支援を行いました。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

① 地域住民、関係機関等との連携推進支援

日頃から地区民児協、地区社協の定例会等に参加して関係機関との情報共有を進めました。民児協の定例会には、これまでスポット的な出席でしたが、地区民児協会長から定例会への終始出席の許可をいただくことができました。

この機会を活用して、民生委員児童委員の皆様からご相談していただくことができました。民生委員とは定期的に見守り対象者等の情報交換を行い、ケース対応の連携を深めました。

また、地区別計画推進会議に参加して地域住民や関連団体及び関係機関とで課題解決に取組み、地域の支え合いを促進しました。地域住民や関係機関の地域課題に対する認識を深めるため、地域ケア会議を開催して参加を促進しました。(年2回)

②医療・介護の連携推進支援

区域の医療・介護の連携については、主に青葉区主任ケアマネジャー分科会の活動を通じた会議等に参画して推進しました（毎月1回）。

地域ケアプラザ担当エリアにおいては、「包括カンファレンス」や「地域ケア会議」において担当エリアのケアマネジャーと医療職を招いて情報交換を行い、連携を推進しました。また、病院や薬局で認知症サポーター養成講座などを実施して、相互の役割理解と連携向上を図りました。

③ケアマネジャー支援

定期的に「包括カンファレンス」を開催し、担当エリアのケアマネジャーと関連団体及び関係機関との情報交換の場を設定し、ケアマネジャーのケアマネジメント力の向上に努めました（年6回）。

また、ケアマネジャーからの支援困難ケース相談に対応し、必要に応じて専門の関係機関につなげる等対応しました。

さらに、新任ケアマネジャーに対しては、実習支援やケアマネジャー勉強会（青葉区主任ケアマネジャー分科会主催）を行いました（年6回）。

（4）多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多くの職種が参加できるように地域ケア会議を設定し、自立支援の視点や地域の特徴等を情報共有して、自立に資するケアマネジメントの向上を図りました。また、地域で共通する個別課題については、地域課題として課題共有をして解決策を検討していくことから、職種に拘らずに地域課題を地域全体で把握できるように努めました。

（5）介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

事業対象者、要支援1・2と認定された方に対し、本人の有する能力を最大限発揮し、可能な限り自立した生活が継続できるように支援しました。

また、利用者の主体性を尊重しながら、専門性をもったアセスメントを行うことで、適切な介護予防サービスの提供が確保されるよう、関係機関との連絡調整その他の便宜を提供しました。

委託契約を締結している居宅支援事業所との連携及び支援を行い、共に対象者の支援を行いました。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、高齢者自身の力を活かした「介護予防」を推進し、介護予防や健康づくりの講座を行いました。

また、地域で活躍する方々と協働し、高齢者の介護予防の活動をご支援しました。

ア 介護予防普及啓発・地域介護予防活動支援

「もっと元気に健康づくり講座」「ボイストレーニング講座」「ロコモ予防の体操講座」を実施し、介護予防の知識と実技を学びました。「ボイストレーニング講座」や「体操講座」については自主グループ化し継続して活動を行っています。

地域の自主グループ「笑いヨガ」が地域で出前講座を行う際に開催のご支援を行いました。

イ 元気づくりステーション

住民主体の通いの介護予防活動の場として「きらめきウォーク元気づくりステーション」「健康マージャン荏田」の運営を支援します。年に1～2回開催する「栄養」や「ロコモ予防」に関する出前講座の開催支援も行いました。

また、元気づくりステーションに資するグループ活動を支援しました。

ウ 認知症の理解と予防

「認知症サポーター養成講座」などで認知症の講話などを行いました。

また、認知症予防を取り入れた講座を開催しました（「もっと元気に健康づくり講座」等）。

エ その他

住民が身近な場所で継続して介護予防が気軽にできるよう、地域の茶話会や老人会などで口腔ケアやロコモ予防（ハマトレ）、栄養について講話を行いました。

また、保健活動推進員や関係機関と連携をはかり、一緒に講座の企画や活動に取り組みました。

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

青葉区長と横浜市社会福祉協議会（以下、「本会」という）が締結した基本協定書に基づき、地域における福祉活動、保健活動等の振興や身近な場所における、福祉サービス、保健サービス等の総合的提供に資する意義を踏まえ、公共性の趣旨を尊重し、施設の運営状況について市民に必要な情報提供等を行うなど透明性の確保を図り、説明責任を図りながら施設の適正な維持管理を行いました。

ア 指定管理の実施に当たり関係する法令を遵守し、年度協定、事業計画書に基づき施設及び設備について適切な維持保全を行いました。

平成 30 年度修繕実績：入浴用リフトの交換修繕の実施や、駐車場点字ブロックの修繕等

イ えだ福祉ホームと一体建物を区分所有していますが、所有区分及び管理運営について相互に締結した協定書に基づき施設の保守・管理を行いました。また月に 1 回連絡会を開催し、情報共有した上で施設の適切な管理運営を行いました。

ウ 清掃、建物警備や建築物・設備等保守業務は専門業者と業務委託契約を締結し実施します。業者選定及び契約は公平公正を期し本会の規程に基づき行いました。

エ 施設内に「ご意見箱」を設置し、利用者の「声」を集める仕組みを継続しました。なお、今年度はご意見件数は 0 件でした。

また、事業部門毎に利用者アンケートを実施し、利用者のニーズや施設運営に関する課題等を抽出、分析し利用者が快適にかつ安全に利用できる施設管理を行いました。

(2) 効率的な運営への取組について

地域ケアプラザの公共性を理解し、利用者をはじめ地域住民のニーズを把握及び反映させた施設運営に努めました。また施設の運営状況について市民に必要な情報提供を行いました。

ア 節約に努めましたが、猛暑の影響もあり、光熱水費は前年度並となりましたが、消耗品等の経費支出は10%以上の削減ができました

ご意見箱や利用者アンケート等により、地域住民の声やニーズを把握・反映させた施設運営や事業を実施しました。

イ 広報紙やホームページ・ブログ等の広報媒体を効果的に活用し、市民に必要な福祉・保健に関する情報を提供しました。

(3) 苦情受付体制について

利用者、市民等からの苦情については、本会が定めた苦情解決規則や体制に基づき、苦情の適切な解決をはかり、利用者等の権利を擁護するとともに実施する事業の質や施設運営の信頼性の向上に努めました。(苦情案件は0件でした)

ア 施設内に受付担当者及び実務責任者を配置し、寄せられた苦情に対し迅速に適切に解決に向けた体制を整備しました。(苦情案件は0件でした)

イ 本会では苦情解決調整委員を設置しており、苦情の申出者が希望する場合や解決が困難な場合は中立・公正な立場からあつせん・調整を行うほか、苦情に関する改善状況や日常的な状況を把握しました。

ウ 本会が作成した苦情相談対応マニュアルを活用するとともに、本会が実施する研修を受講し、適切な対応ができるよう努めました。また、法人内の苦情解決を通じて、事業やサービスの質を向上させました。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

職員の緊急連絡網や状況別に対処・対応方法を定めたマニュアルを活用し、緊急時に迅速・適切に対応できる体制を整備しました。

ア 犯罪や災害発生時に連携できるよう、日頃から自治会・町内会等地域団体と顔の見える関係を構築しました。

イ 地域防災拠点運営委員会に参加すると共に、防災訓練や福祉避難所の開設・運営訓練にも参加し、災害発生時に備えました。

ウ 青葉区長と締結している、災害時における在宅要援護者のための特別避難場所の協力協定を踏まえ、応急備蓄物資を整備しました。

エ 消防計画に基づき、消火、通報及び避難訓練を年2回実施しました。
加えて、洪水害に対応する訓練として水防訓練を年1回実施しました。

オ 閉館時の防火・防犯に関しては機械警備で対応し、緊急時には機械警備の委託業者から警備員が出動し、対処しました。

(5) 事故防止への取組について

ア 事故・ヒヤリハットについては状況や発生に至った要因また対応状況を記録に残し、全職員で共有・検証のうえ再発防止に向けた取組を行いました。

さらに事前に事故を防ぐための時間として、コンプライアンスミーディングを実施し、日常の中で疑問に思うこと等を共有し、コンプライアンスの意識を高めました。

イ 事故発生時には、状況別に定めたマニュアルに従い、適切な対処や報告を行いました。

ウ 始業前及び終業前に職員ミーティング、作業手順の確認や情報共有等を徹底し事故防止に努めました。

エ 建物の設備総合巡視点検を定期的実施し、安全な設備保全に努めました。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

本会の「保有する個人情報の保護に関する規程」により、保有する個人情報の適正な取扱いについて定めているほか、「地域ケアプラザ等における個人情報の取扱基準」により、職員の意識維持向上のための啓発活動、取り扱いの際の具体的なルール等を定めており、これらの規程や基準を遵守し、利用者等の個人の権利利益の保護に努めました。

ア 職員の個人情報保護に関する啓発

全職員を対象とした全体研修を年2回開催する他、部門毎の会議や毎朝・夕のミーティングで、取扱う情報の共有、取扱いに関する作業手順の確認や注意喚起を行いました。

イ 個人情報の管理

個人情報を含むケースファイル等の書類やデータ保存媒体等は所定の保管場所を確保しており、保管や施錠等の管理を徹底しました。

ウ 業務に使用するパソコンの管理

使用するパソコンにはそれぞれパスワードを設定し、関係者以外のアクセスを制限します。また、セキュリティ対策ソフトの使用により情報の漏洩・流出を防止しました。

エ 作業場所の整理整頓の徹底

職員間の回覧文書への配慮や文書等の整理整頓に努め、個人情報の漏洩・流出や紛失防止に努めました。

オ 関連規程・基準の遵守の徹底

本会の「保有する個人情報の保護に関する規程」や「地域ケアプラザ等における個人情報の取扱基準」を遵守して業務を遂行しているか、日頃より全職員が点検を行いました。

(7) 情報公開への取組について

本会の「保有する情報の公開に関する規程」を遵守し、市民の福祉活動への積極的な参加、理解と信頼の推進に努めました。

平成30年度の情報開示請求件数：1件

(8) 人権啓発への取組について

相談者や利用者は人権侵害を受けやすい立場であることを認識し、人権啓発に努めました。

そのため、本会が実施する「人権研修」を管理職及び職員が受講しました。受講できなかった職員に対しては、伝達研修を実施して全職員に研修内容を周知しました。

また職員全体会を実施し、ケアプラザ職員全員に対し、LGBT研修を実施し、人権啓発の機会を設けました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

ヨコハマ3R夢プランを推進しました。また職員はもとより、利用者へも節電・節水への協力を呼びかけ、環境保護へ努めました。

ア ごみの分別の徹底や発生の抑制、また資源の再使用・再利用を推進しごみの減量に取り組みました。職員のごみは持ち帰りの徹底を行いました。

イ 利用者へも協力を呼びかけ、節電・節水に取り組み、省エネ及び環境保護を推進しました。

介護保険事業

● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

- ・ 管理者 主任ケアマネジャー 1名 (常勤兼務)
- ・ 保健師等 1名 (常勤兼務)
- ・ 社会福祉士 1名 (常勤兼務)
- ・ 介護予防プランナー 1名 (非常勤)

《目標に対する成果等》

事業対象者、要支援1・2と認定された方に対し、本人の有する能力を最大限発揮し、可能な限り自立した生活が継続できるように支援しました。また利用者の主体性を尊重しながら、専門性をもったアセスメントを行うことで、適切な介護予防サービスの提供が確保されるよう、関係機関との連絡調整その他の便宜を提供しました。

委託契約を締結している居宅支援事業所との連携及び支援を行い、共に対象者の支援を行いました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

利用者の負担金はありません。

但し、ご利用者の介護保険料の滞納等により事業所が介護保険からサービス利用料金に相当する給付を受領できない場合に、契約者はサービス利用料金の全額を事業所に対し、一度支払うこととなります。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- (1) 利用者の個別性を尊重し、個々のニーズに沿ったサービス計画を作成し、横浜市の独自サービスやインフォーマルサービスなども含めた適切な情報提供をしました。
- (2) 関係機関との連携に努め、課題解決に向け積極的に関わりました。
- (3) 近隣施設やインフォーマルサービスを情報収集し、新しい情報を提供できるようにしました。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
114	116	114	115	130	120
10月	11月	12月	1月	2月	3月
120	120	125	126	128	132

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

- ・ 管理者 1 名（常勤兼務）
- ・ 介護支援専門員 4 名（常勤兼務 1 名、非常勤専従 3 名）

《目標に対する成果等》

- (1) 利用者の個別性を尊重し、心身の状況や環境等に応じて、住み慣れた地域で自立した日常生活ができるように支援しました。また「地域にねざした、地域に求められる居宅」をめざして地域と関わりました。
- (2) 通所介護部門と連携を図り、利用者実績の向上に取り組みました。
- (3) 適切なケアマネジメントができる力を持った介護支援専門員を育成しました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

利用者の負担金はありません。但し、ご利用者の介護保険料の滞納等により事業所が介護保険からサービス利用料金に相当する給付を受領できない場合に、契約者はサービス利用料金の全額を事業所に対し、一度支払うこととなります。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- (1) 平成 30 年度の介護保険改正の重点項目である医療との連携、自立支援の強化につながる公正中立な居宅サービス計画を作成し、支援しました。
- (2) 質の高いサービス提供ができるように支援体制を強化し、区役所・地域包括支援センター等関係機関との連携に努め、課題解決に向け積極的に関わりました。
- (3) 利用者や家族がその地域の方々とのつながりがもてるように地域の行事やインフォーマルサービス等を含めた適切な情報提供を行い、また地域の行事で介護保険についての講座を開催するなど地域に貢献しました。
- (4) 所内でケースカンファレンスを定期的に行うと共に、市社協や他の研修機関で開催される研修に積極的に参加して、資質の向上を図りました。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。（）内は予防件数

【単位：人】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
112 (16)	123 (18)	121 (17)	130 (17)	123 (16)	135 (16)
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
134 (17)	131 (16)	133 (15)	127 (15)	131 (15)	130 (15)

● 通所介護

《提供するサービス内容》

- ・ 食事 ・ 入浴 ・ 個別機能訓練 ・ 口腔機能向上訓練 ・ 生活相談等
- ・ レクリエーション

《実費負担（1割負担分）》

【基本額】

(要介護1)	599円
(要介護2)	708円
(要介護3)	816円
(要介護4)	926円
(要介護5)	1,034円

【加算】

(入浴加算)	54円
(口腔機能向上加算)	161円
(個別機能訓練加算Ⅱ)	60円
(体制強化加算Ⅰイ)	20円
(中重度者体制加算)	49円

(介護職員処遇改善加算) 所定単位数に1000分の59を乗じた単位数を加算

- ・ 食費負担 750円

《事業実施日数》 週7日（12月29日～1月3日を除く）

《提供時間》 10：15～15：20

《職員体制》

生活相談員	6名（常勤兼務3名、非常勤兼務3名）
看護師・機能訓練指導員	6名（非常勤）
介護員	12名（常勤兼務3名、非常勤8名（内、兼務3名））

《目標に対する成果》

- ・ 個々のニーズに即した援助ができるよう、プログラムの充実を図りました。
- ・ 地域の身近な施設として、各種団体や地域と積極的な交流をしました。
- ・ 利用者実績が前年度を上回るよう、新規利用者を確保しました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

ア 取組成果

- ・ 年間行事 敬老会（9月）クリスマス会（12月）、もちつき大会（1月）等
- ・ 提供サービス 生活指導（相談援助等）、機能訓練（日常動作訓練）もしくは運動器機能向上訓練、口腔機能向上サービス、介護サービス、健康状態の確認、送迎、給食、入浴
- ・ 個別プログラム 脳トレ、麻雀、将棋、囲碁、書道、カラオケ、パッチワーク、野菜作り、フラワーアレンジ、絵手紙、大人の塗り絵など
- ・ 広報活動 えだ山の笑顔（毎月発行）
- ・ 交流事業 荏田小学校、川和高校、地域のサロン等

- ・人材育成 職員研修の実施
- ・実習生受け入れ 近隣中学、初任市職員・消防士、県内の大学生
- ・協力者、団体 民生委員、ボランティア（整容、話し相手）、
ショーボランティア（敬老会、クリスマス会などイベント時に歌やダンスの披露）、荏田宿カフェの定期訪問

イ 地域に向けた取組み

- ・デイサービス職員が地域行事や当地域ケアプラザ主催の講座等で地域の方と積極的に関わっていきました。
- ・ボランティアを積極的に受け入れ、地域の方々のボランティア活動を促進しました。
- ・荏田小学校の小学生との交流を継続し、実習生の受け入れも積極的に行いました。

《利用者実績（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
498	521	513	523	534	535
10月	11月	12月	1月	2月	3月
562	539	514	494	491	559

● 介護予防通所介護・第1号通所事業

《提供するサービス内容》

- ・食事 ・入浴 ・個別機能訓練 ・口腔機能向上訓練 ・生活相談等
- ・レクリエーション

《実費負担（1割負担分）》

【基本額】

（事業対象者、要支援1）	1,766円
（要支援2（1））	1,766円
（事業対象者、要支援2（2））	3,621円

【加算】

（運動機能向上加算）	242円
（口腔機能向上加算）	161円
（体制強化加算Ⅰイ）	
事業対象者、要支援1	78円
要支援2（1）	78円
事業対象者、要支援2（2）	155円
（介護職員処遇改善加算）	所定単位数に1000分の59を乗じた単位数を加算

食費負担 750円

《事業実施日数》 週7日

《提供時間》10：15～15：20

《職員体制》

活相談員	6名（常勤兼務3名、非常勤兼務3名）
看護師・機能訓練指導員	6名（非常勤）
介助員	12名（常勤兼務3名、非常勤8名（内、兼務3名））

《目標に対する成果等》

- ・個々のニーズに即した援助ができるよう、プログラムの充実を図りました。
- ・地域の身近な施設として、各種団体や地域と積極的な交流をしました。
- ・利用者実績が前年度を上回るよう、新規利用者を確保しました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

ア 取組成果

- ・年間行事 敬老会（9月）クリスマス会（12月）、もちつき大会（1月）等
- ・提供サービス 生活指導（相談援助等）、機能訓練（日常動作訓練）もしくは運動器機能向上訓練、口腔機能向上サービス、介護サービス、健康状態の確認、送迎、給食、入浴
- ・個別プログラム 脳トレ、麻雀、将棋、囲碁、書道、カラオケ、パッチワーク、野菜作り、フラワーアレンジ、絵手紙、大人の塗り絵など
- ・広報活動 えだ山の笑顔（毎月発行）
- ・交流事業 荏田小学校、川和高校、地域のサロン等
- ・人材育成 職員研修の実施
- ・実習生受け入れ 近隣中学、初任市職員・消防士、県内の大学生
- ・協力者、団体 民生委員、ボランティア（整容、話し相手）、ショーボランティア（敬老会、クリスマス会などイベント時に歌やダンスの披露）、荏田宿カフェの定期訪問

利用者実績（契約者数）≫

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
4.0	4.0	3.0	4.0	5.0	5.0
10月	11月	12月	1月	2月	3月
6.0	7.0	6.0	7.0	6.0	7.0

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市荏田地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②参加人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
GoGo健康！うさぎとかめの会「もっと元気に健康づくり講座」	高齢者	28600	地活						
	113		包括	28,600			24,000	4,600	
	なし		介護						
			生活						
茶話会	高齢者	144,147	地活	34,947	109200		3,000	5,672	135,475
	358		包括						
	原則 1回200円		介護						
			生活						
えだびよ	乳幼児とその保護者	4,342	地活	4,342					4,342
	457		包括						
	なし		介護						
			生活						
荏田宿カフェ	地域住民	0	地活						
	111		包括						
	なし(共催団体で収受)		介護						
			生活						
あざみ野南4丁目サロン	高齢者	5,040	地活	5,040					5,040
	111		包括						
	なし		介護						
			生活						
荏田地区社協主催茶話会での出張講座	地域住民	0	地活						
	311		包括						
	なし		介護						
			生活						
エンジョイ 荏田塾たけのこクラブ(協議体)	地域住民	4,640	地活						
	428		包括						
	なし		介護						
			生活	4,640				4,640	
介護者のつどい	地域住民	8,960	地活						
	51		包括	8,960					8,960
	なし		介護						
			生活						
きらめきウォーク	高齢者	0	地活						
	30		包括						
	なし		介護						
			生活						
江田駅前立ち寄りサロン	高齢者	5,600	地活						
	118		包括						
	なし		介護						
			生活	5,600				5,600	
めざせ歌うま健康ボイストレーニング講座	高齢者	30,000	地活						
	117		包括	30,000			30,000		
	なし		介護						
			生活						
55歳からの若返り体操「からだ年齢マイナス10歳をめざそう」	高齢者	97,760	地活						
	115		包括	97,760			90,000	7,760	
	なし		介護						
			生活						
いきいき健康学養講座	高齢者	0	地活						
	14		包括						

平成30年度 自主事業収支報告書

事業名	対象者	人数	生活	収入				合計
				地活	包括	介護	生活	
もちつき大会	なし	32,906	介護					32,906
	地域住民		生活					
	104		地活	26,906	6,000			
	100円		包括					
青葉区版エンディングノート「わたしノート」書き方講座	なし	0	介護					
	地域住民		生活					
	20		地活					
	なし		包括					
地域団体交流会	なし	7,264	介護					7,264
	地域団体		生活					
	25		地活	7,264				
	なし		包括					
「男の備学」講座	なし	48,036	介護					
	高齢者		生活					
	58		地活					
	1500円		包括					
			介護	31,536	16,500		34,000	14,036

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
いきいき健康栄養講座	地域で活動しているヘルスマイトと共催し、減塩を切り口に、栄養について学ぶ場。 ヘルスマイトの活動やケアプラザ・包括の機能や役割についての普及啓発も目的としている。	11月 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
もちつき大会	地域住民の交流を目的として、男性ボランティアグループ「男塾」が共催、荇田小学校、城南信用金庫荇田支店の協力の下開催。	12月 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
青葉区版エンディングノート「わたしノート」書き方講座	青葉区版エンディングノート「わたしノート」の普及啓発と、成年後見制度及びその実際について説明し同制度の利用促進を図る	1月 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
「男の備学」講座	定年退職を迎えた男性を対象に、介護予防(健康づくり)と地域デビューのきっかけ作りを目的とする。	10月～12月 6回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域団体交流会	荇田地域ケアプラザの貸館登録団体を対象に、団体同士の横のつながりから新たな取り組みが生まれることを目的に実施。	11月 1回

**平成30年度「荏田地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(一般会計)＜地域活動＞**

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	17,057,340	16,541,340	516,000	横浜市より
利用料金収入			0	この列は入力しない
指定管理料充当 事業	124,000	115,200	8,800	自主事業参加費
自主事業収入			0	この列は入力しない
雑入	0		52,240	
印刷代		21,161	21,161	印刷代
自動販売機手数料		0	0	この列は入力しない
駐車場利用料金収入		0	0	この列は入力しない
その他(指定管理充当)		31,079	31,079	寄付金等
その他(施設使用料相当額 法人負担分)	1,977,500	1,977,500	0	
その他(提案時控除 法人負担分)	0		0	
収入合計	19,158,840	18,634,040	472,560	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	12,223,000	10,288,171	1,934,829	
本俸	9,210,000	8,044,211	1,165,789	所長1/8、地域活動交流コーディネーター、サブコーディネーター
社会保険料	773,000	606,374	166,626	所長1/8、地域活動交流コーディネーター、サブコーディネーター
手当計	2,163,000	1,473,710	689,290	調整手当、超勤手当、通勤手当等
健康診断費	3,000	14,175	11,175	所長、地域活動コーディネーター
勤労者福祉共済掛金	10,000	6,750	3,250	ハマフレンド
退職給付引当金繰入額	64,000	142,950	78,950	所長退職給付引当金
その他	0		0	該当なし
事務費	1,766,000	1,054,144	691,851	
旅費	21,000	18,119	2,881	会議等出張旅費
消耗品費	284,000	215,404	68,596	事務消耗品費、事業消耗品費
会議随費	0		0	該当なし
印刷製本費	0	928	928	領収書発行
通信費	600,000	272,841	327,159	電話料金、郵送料金等
使用料及び賃借料	0	0	20,005	
横浜市への支払分			0	該当なし
その他		20,005	20,005	修繕費追加配分
備品購入費	32,000	0	32,000	該当なし
図書購入費	48,000	38,268	9,732	新聞購読料
施設賠償責任保険	0	16,969	16,969	施設の損害賠償保険
職員等研修費	21,000	11,592	9,408	研修旅費、防災管理者講習費
振込手数料	0	0	0	該当なし
リース料	95,000	79,851	15,149	印刷機、AED、玄関マット、複合機リース料
手数料	3,000	216	2,784	残高証明発行手数料
地域協力費	0	0	0	該当なし
その他	662,000	399,956	262,044	予防接種助成金、求人広告費、租税公課、本部共通経費等
事業費	568,000	200,756	326,992	
運営協議会経費	42,000	1,748	40,252	会議お茶代等
指定管理料充当 事業	526,000	199,008	326,992	もちつき大会、茶話会
管理費	3,500,000	2,817,332	682,668	
建築物・建築設備点検	0	29,791	29,791	12築点検
光熱水費	2,304,000	1,579,538	724,462	全体光熱費一介護保険部門光熱費
電気料金			0	
ガス料金			0	この列は入力しない
水道料金			0	
清掃費	505,000	532,691	27,691	清掃業務委託(アメニティシステム)
修繕費	474,000	135,675	338,325	点字ブロック修繕等
機械整備費	96,000	95,331	669	夜間整備
設備保全費	121,000	281,063	160,063	
空調衛生設備保守	0	0	0	
消防設備保守	14,000	20,589	6,589	協和メンテナンス
電気設備保守	32,000	34,956	2,956	ハマメンテ
害虫駆除清掃保守	27,000	25,819	1,181	防虫協
駐車場設備保全費	0	0	0	該当なし
その他保全費	48,000	199,699	151,699	総合巡視点検、エレベーター保守、自動ドア、ボイラー
共益費	0	0	0	
その他	0	163,243	163,243	施設内草刈り業務委託(11587)、ルート回収(127486)、文書管理(6586)、産産(18291)、本館回廊(17660)
公租公課	977,840	823,053	154,787	
事業所税			0	この列は入力しない
消費税	977,840	823,053	154,787	人件費
印紙税			0	この列は入力しない
その他()			0	この列は入力しない
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	この列は入力しない
本部分			0	この列は入力しない
当該施設分			0	この列は入力しない
二重対応費			0	この列は入力しない
支出合計	19,034,840	15,183,456	3,791,127	
差引	124,000	3,450,584	3,318,567	

自主事業費収入	526,000		526,000	自主事業収入は指定管理充当分に計上
自主事業費支出	526,000	199,008	326,992	茶話会、あさ4サロン、えだびよ、もちつき大会、絵画サークル
自主事業収支	0	199,008	199,008	⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費
管理許可・目的外使用許可収入	0	21,686	21,686	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0	8,400	8,400	使用料(横浜市への支払等) 自販機目的外使用料(8400)
管理許可・目的外使用許可収支	0	13,286	13,286	

平成30年度「荏田地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(特別会計)

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	23,500,000	23,500,000	23,500,000	0	横浜市より
指定管理料(介護予防)	151,000	151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000	5,789,000	5,789,000	0	横浜市より
利用料金収入		0		0	
指定管理料充当事業(包括)		0		0	該当なし
指定管理料充当事業(介護予防)		0	0	0	該当なし
指定管理料充当事業(生活支援)		0	16,500	16,500	男の備学講座
自主事業収入		0		0	
雑入	0	0	12,000	12,000	
印刷代		0		0	該当なし
自動販売機手数料		0		0	該当なし
駐車場利用料金収入		0		0	該当なし
その他(指定管理充当)		0	12,000	12,000	実習生受け入れ
その他(提案時控除 法人負担分)	1,401,000	1,401,000		1,401,000	
収入合計	30,841,000	30,841,000	29,468,500	1,372,500	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	27,209,000	27,209,000	23,500,425	3,708,575	
本俸	18,753,000	18,753,000	11,652,750	7,100,250	包括3職種、所長3/8
社会保険料	3,205,000	3,205,000	2,981,567	223,433	包括3職種、所長3/8
手当計	3,855,000	3,855,000	7,324,633	3,469,633	調整手当、超勤手当、通勤手当等
健康診断費	55,000	55,000	42,525	12,475	包括3職種、所長3/8
勤労者福祉共済掛金	25,000	25,000	20,250	4,750	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	1,316,000	1,316,000	1,478,700	162,700	包括3職種、所長3/8
その他	0	0		0	
事務費	1,511,000	1,511,000	1,161,914	349,086	
旅費	47,000	47,000	40,808	6,192	会議等交通費
消耗品費	150,000	150,000	118,424	31,576	文具等
会議贈い費	0	0		0	該当なし
印刷製本費	15,000	15,000		15,000	該当なし
通信費	205,000	205,000	252,081	47,081	電代、郵券等
使用料及び賃借料	0	0	0	0	
横浜市への支払分		0		0	該当なし
その他		0		0	該当なし
備品購入費	61,000	61,000		61,000	該当なし
図書購入費	0	0		0	該当なし
施設賠償責任保険	0	0	4,511	4,511	施設の損害賠償
職員等研修費	36,000	36,000	13,306	22,694	研修旅費
振込手数料	0	0		0	該当なし
リース料	22,000	22,000	21,224	776	印刷機、AED等
手数料	0	0		0	該当なし
地域協力費	0	0			
その他	975,000	975,000	711,560	263,440	本部共通経費等
事業費	1,190,000	1,190,000	649,007	540,993	
協力医	630,000	630,000	378,000	252,000	予算：指定額 全18回
指定管理料充当自主事業(包括)	100,000	100,000	13,560	86,440	介護者のつどい等
指定管理料充当自主事業(介護予防)	151,000	151,000	151,760	760	ボイトレ講座等
指定管理料充当自主事業(生活支援)	309,000	309,000	105,687	203,313	予算：指定額 男の備学講座等
管理費	931,000	931,000	748,900	182,100	
建築物・建築設備点検		0	7,919	7,919	予算：指定額 12条点検
光熱水費	530,000	530,000	419,877	110,123	
電気料金		0		0	
ガス料金		0		0	
水道料金		0		0	
清掃費	183,000	183,000	141,601	41,399	
修繕費	126,000	126,000	36,063	89,937	予算：指定額
機械警備費	42,000	42,000	25,340	16,660	
設備保全費	50,000	50,000	74,709	24,709	
空調衛生設備保守	0	0		0	
消防設備保守	6,000	6,000	5,473	527	
電気設備保守	13,000	13,000	9,291	3,709	
害虫駆除清掃保守	12,000	12,000	6,863	5,137	
駐車場設備保全費	0	0		0	
その他保全費	19,000	19,000	53,082	34,082	
共益費	0	0		0	
その他	0	0	43,391	43,391	
公租公課	0	0	0	0	
事業所税		0		0	
消費税	0	0		0	
印紙税	0	0		0	
その他()		0		0	
事務経費(計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	
本部分		0		0	
当該施設分		0		0	
二対対応費		0		0	
支出合計	30,841,000	30,841,000	26,060,246	4,780,754	
差引	0	0	3,408,254	3,408,254	

自主事業費収入					
自主事業費支出					
自主事業収支	0		0		⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入			0		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人
管理許可・目的外使用許可支出			0		使用料(横浜市への支払等)、駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支			0		

平成 30年度 地域ケアプラザ収支予算書及び報告書<介護保険事業分>

施設名: 荏田地域ケアプラザ

平成30年4月1日～平成31年3月31日
(単位:千円)

	科目	介護予防支援			居宅介護支援			通所介護			予防通所介護・第1号通所介護		
		予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引
収入	介護保険収入	7308	7085	223	19895	19266	629	53641	57973	-4332	1004	1273	-269
	その他	4	0	4	1716	1077	639	5034	7562	-2528	651	207	444
	介護予防ケアマネジメント費			0	1716	1077	639			0			0
	事業・負担金収入			0		0	0			0	110	207	-97
	住所地特例	4		4		0	0			0			0
	食費			0		0	0	5034	4859	175	541		541
	追加配布			0		0	0		2322	-2322			0
	その他			0		0	0		381	-381			0
	収入合計(A)	7312	7085	227	21611	20343	1268	58675	65535	-6860	1655	1480	175
	支出	人件費	3260	2933	327	12989	10497	2492	45815	46101	-286		
事務費		8	9	-1	62	51	11	307	589	-282			0
事業費		2622	4	2618	395	432	-37	16038	19808	-3770			0
管理費				0	0	0	0			0			0
その他		260	2847	-2587	0	0	0	0	0	0			0
利用者負担軽減額				0			0			0			0
消費税				0			0			0			0
介護予防プラン委託料		260	2847	-2587			0			0			0
				0			0			0			0
その他				0			0			0			0
支出合計(B)	6150	5793	357	13446	10980	2466	62160	66498	-4338	0	0	0	
収支 (A)-(B)	1162	1292	-130	8165	9363	-1198	-3485	-963	-2522	1655	1480	175	

※予防通所介護・第一号通所介護事業は、通所介護と一体的に運営されているため、支出は全て通所介護に含まれています。
収入については、食費、その他分は通所介護に含まれています。

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同様に記載をしてください。